

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第5部門第3区分
 【発行日】平成26年2月6日(2014.2.6)

【公開番号】特開2012-132653(P2012-132653A)
 【公開日】平成24年7月12日(2012.7.12)
 【年通号数】公開・登録公報2012-027
 【出願番号】特願2010-287346(P2010-287346)
 【国際特許分類】

F 2 5 B 1/00 (2006.01)

F 2 8 D 7/10 (2006.01)

F 2 5 B 43/00 (2006.01)

【F I】

F 2 5 B 1/00 3 3 1 Z

F 2 8 D 7/10 A

F 2 5 B 43/00 E

F 2 5 B 43/00 T

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月16日(2013.12.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

そして、冷媒が、冷媒入口(17)から高温側冷媒通路(12)内に流入して冷媒出口(18)から流出するまでの間に、液溜(14)内に入るとともに、液溜(14)内から高温側冷媒通路(12)に戻るようになされている。

ここで、高温側冷媒通路(12)における冷媒入口(17)から冷媒出口(18)までの距離をX、冷媒入口(17)から高温側冷媒通路(12)内に流入した冷媒が液溜(14)内に入るまでに流れる距離をYとした場合、 $0.15 \leq Y/X \leq 0.8$ という関係を満たしている。また、前記距離Xと前記距離Yとは、 $0.2 \leq Y/X \leq 0.4$ という関係を満たしていることが好ましい。なお、冷媒入口(17)から高温側冷媒通路(12)内に流入した冷媒は、所定の大きさを有する開口(19)および冷媒通過口(24)を通過して液溜(14)内に入るの、冷媒入口(17)から高温側冷媒通路(12)内に流入した冷媒が液溜(14)内に入るまでに流れる距離Yは、開口(19)および冷媒通過口(24)のどの部分を通過するかによって変化することがある。しかしながら、この場合であっても、すべての前記距離Yについて、 Y/X が上述した関係を満たしている。